

大牟田市立高取小学校

1 本校のESDの特徴

本校区には豊かな自然が多く残っており、また、学習を支援して頂ける人材や施設も豊富である。このような環境の中、本校では、環境教育と福祉教育を中心に据えながらESDに取り組んでいる。ESDを推進するにあたって、主として生活科や総合的な学習の時間において、他者や社会、自然環境との関係性を認識し、「かかわり」、「つながり」を尊重できる児童の育成をめざした取組を行ってきている。

環境教育では、自然を愛したり、自然を大切にす地域の人と関わったりすることで、自然を大切にしたいという心を持ち、自ら環境へ働きかけ、環境を守り、受け継ごうとする協働的実践力を培うことをねらいとしている。

福祉教育では、人間尊重の精神を基盤にして、道徳的心情を育成し、福祉に対する理解を深め、お互いに助け合い協力し合い、住みよい社会をつくるための実践的態度の育成をねらいとしている。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| (1) 1年生「さあみんなであかけよう」 | (生活科 6月～ 11時間) |
| 「たのしもうあき」 | (生活科 10月～ 14時間) |
| 「たのしさ見つけたよふゆ」 | (生活科 12月～ 12時間) |
| (2) 2年生「レッツ・ゴー 町たんけん」 | (生活科 5～1月 39時間) |
| (3) 3年生「わくわくドキドキお話探偵団」 | (総合的な学習の時間 4～2月 36時間) |
| (4) 4年生「心のキャッチボール」 | (総合的な学習の時間 5～3月 52時間) |
| (5) 5年生「高取ホテルのいるまち計画」 | (総合的な学習の時間 4～2月 50時間) |
| (6) 6年生「守ろう！たからもの」 | (総合的な学習の時間 ～3月 37時間) |

3 特徴的な活動事例

<5年生 総合的な学習の時間 単元名「高取ホテルのいるまち計画」50時間>

(1) 目標

- ①自然環境保護に積極的な地域の取組について調べることを通して、身近な環境に関心を持ち、校区について自分が追究したい課題を見つけることができる。
- ②校区の問題に対して自分たちのできることを計画実践し、新聞やチラシなどを使いまとめ、集会等を通して、他学年や地域に伝達し活動を広げることができる。
- ③自分たちの活動について、見方・考え方の広がりや深まりを振り返り、自他の学び方、考え方のよさを感じたり、認め合ったりすることができる。

④地域の方々との関わり合いを通して、色々な方と支え合いながら、共に生きる社会のよさを感じ、地域を愛する気持ちを育むことができる。

(2) 実践の展開

①ごみ調査をしよう

○校区ごみ調査を通して、自分たちの校区のよさと課題を見つける。

- ・自分たちの町が高取山や長溝川など自然豊かな環境に囲まれていることに気付くと共に、地域のいたる所にゴミが捨ててあるという問題に気付く。
- ・長溝川にいるホタルを守るために、自分たちにできることはないか考える。

②長溝川の水質を調べよう

○長溝川の水質を調べる。

- ・長溝川は道路から見ると、透明できれいであるが、詳しく調べることで汚れがあることに気付くとともに、川の中や周りにたくさんのごみが落ちていることに気付く。
- ・長溝川にいつまでもホタルが生息できる川を保つために、どうすればいいか話し合い、計画する。

③高取ホタルのいるまち計画を立ち上げよう。

○高取ホタルのいるまち計画を立ち上げる。

- ・高取校区の長溝川にホタルがいること、川の周りにはたくさんのごみがあり、川を汚していることを全校朝会で紹介し、全校児童に登校時のごみ拾いの協力をお願いする。
- ・手作りのごみ箱を作ったり、毎月3と5の付く日を「ごみの日」としたりして、みんながごみに対する意識が高まるよう計画する。

④地域の方々に協力をお願いしよう

○高取小学校だけでなく、校区に住む全ての方々に「高取ホタルのいるまち計画」について知ってもらい、協力してもらおう。

- ・これまでの活動をまとめたチラシを作成し、校区すべての家庭に届けてもらうために、民生委員の方など地域の方々に協力をお願いする。
- ・校区一斉美化活動について、提案し、協力をお願いする。

⑤校区一斉美化活動

○校区一斉美化活動「拾って、集める、ごみ活動」を計画し、実行する。

- ・全校児童と保護者、地域の方々に協力してもらい、校区一斉美化活動ができるよう企画し、案内を作成しお願いする。

⑥「高取ホタルのいるまち計画」を振り返り、次の活動への思いを持つ。

○高取ホタルのいるまち計画を振り返ろう。

- ・地域でボランティアをしてある方々の話を聞いたり、インタビューをしたりする活動を通して、ボランティア活動に対する思いに触れ、自分たちのこれからの活動に活かす。



4 本年度の成果と課題

○成果

- ・子ども達は課題解決の活動を通して、新たな課題を自分たちで見つけ、それらに取り組んでいくことで、友達と協力して学ぶことのよさや大切さを実感することができた。また、地域の方々との「かかわり」、「つながり」を感じることもできた。

○課題

- ・来年度は、地域の方との体験活動をさらに充実させるとともに、校区の未来について考えさせ、地域の方々とのつながりがさらに深まるよう学習活動を工夫していきたい。